

第4次町田市農業振興計画 改訂版(案)
パブリックコメント実施結果

2022年3月
経済観光部農業振興課

第4次町田市農業振興計画 改訂版(案)

パブリックコメント実施結果

1 意見の募集期間

2021年12月15日(水)から2022年1月17日(月)

2 意見の募集方法

- ・2021年12月1日号にパブリックコメント実施概要を掲載
- ・2021年12月15日号広報に概要掲載
- ・町田市ホームページにて資料の掲載のほか、市庁舎や市民センターなどの公共施設、町田市農業協同組合の5支店で、資料の閲覧・配布

3 お寄せいただいた意見の件数

窓口への提出、電子メール、郵送により15名の方から26件のご意見をお寄せいただきました。
ご意見の項目別の内訳は以下のとおりです。

ご意見の対象(項目)	意見番号	件数
①【基本目標Ⅰ】意欲的農業者が安心して生産できる環境づくり	1～3	3
②【基本目標Ⅱ】都市農地の保全と活用による多面的機能の発揮	4～6	3
③【基本目標Ⅲ】立地を活かした地産地消の推進	7～17	11
④【基本目標Ⅳ】多様な交流機会をきっかけとした市民の農に対する魅力の向上	18～19	2
⑤総括	20～26	7

【ご意見の概要と市の考え方について】

①【基本目標Ⅰ】意欲的農業者が安心して生産できる環境づくり

番号	ご意見の概要	市の考え方
1	新規就農者は既存の農家と違って、家や畑・設備・売り先などない状態から始まります。新規就農者が、新規就農者の相談窓口になった方がいいと思います。または、農業委員さんや行政などに新規就農者の意向などを反映できる仕組みが必要なのではと思います。	新規就農者支援につきましては、計画に基づき、農業者や農業委員と連携し、事業を推進してまいります。
2	新規就農者は、拠点、道具、道具置き場、倉庫、保管庫全てがゼロからのスタートで、放棄されている農地も点在していることから、代々の農家よりはるかにハードルが高いと思います。そして、放棄されている土地というのは、収穫高が低い。その辺りのサポートを市で全面的にやるのはとてもいいことだと思います。	いただいたご意見を参考に、計画を着実に推進してまいります。
3	農業従事者の確保（これ以上減らさないで！）計画にあるように、従事者の育成、サポート体制を強化し予算もきちんとつけて対応していただきたい。	農業従事者の確保につきましては、基本目標Ⅰ（意欲的農業者が安心して生産できる環境づくり）及び基本目標Ⅱ（都市農業の保全と活用による多面的機能の発揮）に基づき、取り組んでまいります。

②【基本目標Ⅱ】都市農地の保全と活用による多面的機能の発揮

番号	ご意見の概要	市の考え方
4	<p>市街化調整区域内の農家は、同区域内の農地だけで農業として生活できません。細かい谷戸田、山を開墾した畑（傾斜地と日陰）でどのように農業経営できますか？やむを得ず遊休農地となっています。調整区域内の農地転用は都知事許可で全く地域の農業を理解していない担当者の判断で、ほぼ転用許可はありません。農地以外の土地利用を認めるべきです。「遊休農地の再生」軽々しく考えないで下さい。</p>	<p>農地再生事業においては、農業経営に適した農地を選定し、再生を図ってまいります。</p>
5	<p>都市計画法が全面的に改正され、昭和45年に町田市は市街化区域と市街化調整区域に線引きしました。その内容は、市街化区域はおおむね10年以内に開発するとして、地区内では農業を認めない方向で農山林等全ての区域内的の土地は、宅地並み課税にする内容でした。町田市は法律を無視して条例も作らずに市長決済の要綱で農地山林の課税を宅地並みにしませんでした。国は、このような自治体の状況から、特例区域として農業を認める「生産緑地法」が昭和49年6月1日法律68号が発令されました。生産緑地に指定されると固定資産税・都市計画税は農地課税（調整区域と同じ）また、所有者が耕作することを条件に相続税も納税猶予されることになりました。一方、市街化調整区域は5年で仮見直し10</p>	<p>生産緑地の貸借につきましては、2018年9月に施行されました「都市農地の貸借の円滑化に関する法律」に基づき、農地所有者（貸付人）は、事業計画の認定を受けた借受人に貸借をすることが可能となっております。</p>

	<p>年で本格的に市街化区域に編入する。これを繰り返すという説明を全く無視して、今や凍結状態です。これに対して、市街化区域においては更に優遇する「都市農地の賃借の円滑化に関する法律」が2018年9月に施行され、生産緑地に指定された農地を第三者に賃借しても税についても今までどおりに優遇されるという考えられないことになりました。又指定の期間内でも生産緑地の所有者が自ら耕作できない旨の診断書が添付されれば解除されます。(ざる法といわざるを得ません。) 更に今回の法律で、第三者に賃借が認められるのでしょうか。</p>	
6	<p>よい計画・目標と思いますが、まずは生産力と農地について懸念します。さまざまな目標・計画がありますが、それらが達成できるかどうかは町田市全体での生産量の向上にかかっていると思います。現時点でもイベントや企画・販路はさまざまあるものの、野菜が集まらなくて困っているようすを目や耳にします。生産量そのものが増えなければ、市内の農産物の流通量を増やす、新たに学校給食の食材提供するといった素晴らしい計画も絵に描いた餅となるでしょう。そして生産量の向上の基礎となるのはよい農地・使いやすい農地です。よい農地を残し、そしてその農地が生産意欲・経営意欲のある農家のもとにしっかり届くことが生産量向上の大前提だと思います。また農</p>	<p>いただいたご意見を参考に、後期施策（基本目標Ⅱ 都市農地の保全と活用による多面的機能の発揮）に基づき、農地再生事業や農地あっせん事業を推進してまいります。</p>

	<p>地に施設を建てるなど投資することで生産力を向上することもできると思いますが、自己所有農地でないと大規模な投資は難しいものがあります。新規就農者の農地取得もしくは 10 年以上の長期契約の支援を願います。</p>	
--	--	--

③【基本目標Ⅲ】立地を活かした地産地消の推進

番号	ご意見の概要	市の考え方
7	<p>家族の健康のために、新鮮で生産者の顔が見える野菜を手に入れたいと思っていますが、近所の農家の方が育てた野菜がどこで手に入るのか、どのような野菜を作っているのか、町田駅周辺のスーパーや百貨店などの食料品売り場に売っているものなのか、P.16『町田市の農業の課題』にあるように、消費者への周知をお願いします。</p>	<p>後期施策（基本目標Ⅲ 立地を活かした地産地消の推進）に基づき、ウェブ・SNS 等にて市内産農産物の販売場所等の農業情報の発信を行ってまいります。</p>
8	<p>農業祭などを通じて、新鮮な町田産野菜の魅力に触れたことから、日頃から町田産野菜を購入したいと思っています。近所のアグリハウスは営業時間が短く、日曜日が定休日のため、なかなか利用する機会がありません。JA 相模原のベジたべーなは日曜日でも営業しているため、よく利用しています。アグリハウスも定休日を見直していただくと、もっと町田産野菜の購入者が増え、町田産野菜の魅力が伝わると思います。</p>	<p>アグリハウス等の店舗型購入施設だけでなく、生鮮食品 EC プラットフォームを拡大するなど、市内産農産物を購入できる機会を増やしてまいります。</p>

9	<p>①中学校給食への町田の農産物活用について、農家の方、給食調理現場の栄養士さん調理員さんの意見を、ヒアリングする機会を設けてほしいです。②農家の方が難しい朝の納品、調理現場で行き届かない丁寧な洗浄などについて、町田市からの支援をお願いします。③農業体験など、小学校給食で行っている食育体験を、中学校給食でも実施できるよう検討をお願いします。④有機農産物の活用など、給食がよりよくなるための研究をこれからもお願いします。</p>	<p>いただいたご意見の主旨については、今後の事業検討の参考にさせていただきます。</p>
10	<p>市内産の農産物を購入できる場所や農に触れる機会などがあると知らなかったのもっと色んなところでPRされると良いと思います。</p>	<p>後期施策（基本目標Ⅲ 立地を活かした地産地消の推進）に基づき、ウェブ・SNS 等にて市内産農産物の販売場所や、市内産農産物を使う飲食店や加工品販売店である『まち☆ベジグルメ店』、農業体験事業等の農業情報の発信を行ってまいります。</p>
11	<p>栄養士さんが転任などで変わることによって、関係が切れてしまう。栄養士さんによって、野菜の種類を制限しているなどありました。栄養士と農家一緒になって基準を統一していけたら嬉しいです。</p>	<p>栄養士と農業者の連携については、「学校給食食材供給事業」を進める中で、今後の事業検討の参考とさせていただきます。</p>
12	<p>新鮮な野菜を購入したいという意識は、消費者としての多数意見といえる。では、現状自分も含め周りの消費者が地元野菜の購入のためにわざわざ、アグリハウスなどに購入しにいくか</p>	<p>市内産農産物流通促進事業を推進するにあたり、いただいたご意見を参考に、市民にとって、より利便性の高い場所に生鮮宅配ボ</p>

	<p>たとえばその答えはNO。利便性にかけるということが、その理由として考えられる。まず、主婦（夫）、特に平日に仕事をしている人は時間がありません。ゆえに野菜だけでなく肉・魚・乳製品など購入したいものが揃っているスーパーへ行ってしまうのが実情。その問題点を解決できれば消費者は、新鮮かつ安い地元野菜をぜひ購入したいと思うでしょう。</p> <p>新たな野菜だけを売る施設を増設するよりも、地元根付いているスーパーとの連携を図り消費者にとって利便性を優先させることで消費が進むと考える。宅配ボックスの設置するならスーパーの駐車場などに置くことも良いのではないかと。本音を言えば、ふるさと納税の定期便のように自宅玄関先まで新鮮野菜が届けば更にありがたく、利便性が高まり消費アップにつながると思う。</p>	<p>ボックスを設置することを検討します。また、新たな販売チャネルの在り方についても検討してまいります。</p>
13	<p>学校給食食材供給事業について。地産地消コーディネーター派遣事業なども活用し、子どもたちが地域の農業や身近なところで作られた美味しい農産物に、さらに興味をもてるような取り組みを望みます。また、大和市などでは学校給食で出た生ごみを堆肥にし、それを使って農家の方々に作物を育てていただき、その農産物を給食に出すといったシステムが行われています。町田市でも、そのような特徴的な取り組みをぜひ始めていただきたいと思います。</p>	<p>いただいたご意見は、基本目標Ⅲ（立地を活かした地産地消の推進）及び基本目標Ⅳ（多様な交流機会をきっかけとした市民の農に対する魅力の向上）を推進するにあたって、参考とさせていただきます。</p>

14	<p>町田市は東京都の中では、田園風景を備えた自然豊かな町です。この特徴を存分に生かし、地域密着（生産～販売～消費）型の農業を支援：推進してゆかねばなりません。</p> <p>町田の農産物を販売する場所を増やす。市の中心部には多くの方が住んでいるのにもかかわらず、例えばJA中町のショップは規模も小さく品揃えが少ない。金森や忠生、鶴川のような規模になれば、客数も大いに増えることが期待できる。市役所前で月1回行っている即売会を毎週定期化する。毎週にすることにより、客数は定着してゆく。</p>	<p>都市型農業のメリットの一つは、「生産者と消費者の距離が近い」ことであると考えております。市民が町田産農産物を知り、手にとる機会を増やすために、「市内産農産物流通促進事業」を重点事業と定め、推進してまいります。</p>
15	<p>町田市の農産物をPRする機会を増やす。広報まちだや、“タブロイド版”（特集号）等で市民の目にさらす機会を増やす。私は町田市、消費生活センター運営協議会で活動をしているが、町田の農業の実態やこれからの展望等、学習会などを通じて市民の知らせていこうと思っています。私たちのような職に関する諸団体を通じて、広報できることに努力してみたい。</p>	<p>広報まちだや SNS、外部サイトを活用し、PRを実施しております。産学官民の多様な関係団体と連携し、市の農業のPRに努めてまいります。</p>
16	<p>中学校の給食が2024年にスタートされる事に期待しています。町田産の農産物が多く（日常的に）使われる事を望みます。農業の奥深さも（小学生よりも）中学生の方が、より理解できると思いますので、給食を通じて地産地消やSDGsについて授業に取り入れていただくと良いなと思いました。</p>	<p>いただいたご意見は、基本目標Ⅲ（立地を活かした地産地消の推進）及び基本目標Ⅳ（多様な交流機会をきっかけとした市民の農に対する魅力の向上）を推進するにあたって、参考とさせていただきます。</p>
17	<p>市で行っている様々な農業体験に関する情報</p>	<p>現在も広報まちだや SNS、外部</p>

	<p>が市民に届きにくいのではないかと感じています。広報まちだ以外にも SNS 等を使って親近感のある情報発信をしていただけたらと思います。最近になって農業体験ができる機会が町田にはとても多いと知りました。私の子どもが小さかった時に知りたかったなあと思います。特に小さいお子さんのママは余裕がないので、広報まちだの、告知を見つける機会は少ないと思います。</p>	<p>サイトを利用してPRを実施しておりますが、こうした情報発信ツールを、さらに有効的に活用できるよう工夫を図ってまいります。</p>
--	---	---

④【基本目標Ⅳ】多様な交流機会をきっかけとした市民の農に対する魅力の向上

番号	ご意見の概要	市の考え方
18	<p>畑や田んぼでの農業体験を中学校給食でも食育として取り入れて欲しいです。園児、小学生とはまた違った感じ方、学び方をしていけると思う。</p>	<p>いただいたご意見の主旨は、今後の事業検討の参考にさせていただきます。</p>
19	<p>農業とは休みを取りづらく、大変な割に年収は少ないというイメージが払しょく出来ない。子供たちの中で、将来の夢に「農業従事者」という言葉が出てくることはなく、親も農業に従事させることを目標にし学校に行かせている話は耳にしない。それほど、「農業」にたいするイメージは厳しい。10年後15年後に農業を担う人材育成にはもっと根本的な問題を洗い出し、解決策を講じていく必要がある。</p>	<p>幼少期から食や体験を通じて「農」に触れる機会を増やすことで、町田市が農業が市民生活に根付いていくよう周知を図ってまいります。また、農業を担う人材の育成のため、計画に基づき、農業研修事業のカリキュラムの見直しや、農地再生事業を実施してまいります。</p>

⑤総括

番号	ご意見の概要	市の考え方
20	ターゲットを市民と農業者に明確に分けたのは、今後の都市農業のあり方や、市民と共存する農業のスタイルに合うので良いと思う。可能ならば、2040 基本計画とどのように関わるのか。SDGs を達成することで描く未来像が分かりやすく解説されているとより良いと感じました。	「まちだ未来づくりビジョン 2040」では、SDGs の視点も取り入れており、まちづくり基本目標の施策 3-2 の施策推進に向けた方向として「身近に農のあるまちづくり」を掲げております。
21	パブリックコメントの事は 1 週間程度前に市民の方に教えてもらいました。町田の基幹農家にあたる認定農業者の方々には、事前に周知しコメントなどを募るようになっていただくと嬉しいです。	パブリックコメントにつきましては、広報まちだ及び市ホームページにて市民に広く事前周知しておりますが、いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
22	支援などがあることを知らない事業が多々ありました。有機農業、農福連携、地産地消、ボランティア受け入れ、雇用、就農支援、新規就農者支援等に関し、行政等と連携できたり、支援して頂ける、マッチングできるコミュニケーションの場があればと思います。	町田市の農業の課題においては、社会情勢を踏まえポストコロナにおける新しい時代を見据え、人と人、個人と法人等が多様な手段で繋がり、課題を解決していくことが重要であると考えております。計画の方向性にもあるとおり、多様な繋ぎ手と連携し、事業を推進してまいります。
23	近々の問題である農業従事者の高齢化の解決のために、ボランティアではない支援団体が必要と思われる。いわゆる派遣会社のようなシステムを作り、労働に見合った金銭の授受を行い「農業は職業として成立する。」と知ってもら	いただいたご意見は、今後の事業検討の参考にさせていただきます。

	<p>う。その周知は以後「農業の楽しさ」と「職業として成立する」とが結びつき、農業従事者を増やすことにつながると考える。</p>	
24	<p>私は精神障害者手帳2級を持っています。現在、パートナーともうすぐ2歳になる子供を育てています。私たちの生活は切り詰められていて、パートナーは私の介助と子供の世話とアルバイトを掛け持ちしています。住民税は払えません。そんな私たちの育児には公立校での「給食」は必須です。栄養バランスはもちろん、味や素材も良質な物を使って欲しいです。その為に、地産地消の推進、ひいては地域農家への支援は必要と思っています。どうか、市民ひとりひとりが生活しやすい、と感じる町田を目指してください。よろしくお願い致します。</p>	<p>いただいたご意見は、基本目標Ⅲ（立地を活かした地産地消の推進）を推進するにあたって、参考とさせていただきます。</p>
25	<p>もうひとつの懸念は人の問題です。こうした市の取り組みに対して力をあわせてやっているという熱意ある農業者の核（コア）が見えないように思います。東京都全体では都JAの青壮年部会と新規就農者のグループ、ネオファーマーズが協力しているという動きがみられます。営農の最前線に立つ若手同士が出自の違いを超えて力をあわせているという画期的なものと感じています。残念ながら町田市JAの青壮年部会は都の青壮年部に加盟していないためこの動きの蚊帳の外になっています。町田市でも若い農業者と一緒に力をあわせ知恵</p>	<p>町田市の農業の課題においては、社会情勢を踏まえポストコロナにおける新しい時代を見据え、人と人、個人と法人等が多様な手段で繋がり、課題を解決していくことが重要であると考えております。計画の方向性にもあるとおり、JA 町田市も含めた多様な繋ぎ手と連携し、事業を推進してまいります。</p>

	<p>を出しあえる枠組みを作り、そこでこれらの計画と一緒に推進していったらどうでしょうか。どんな素晴らしい計画も実現できるかどうかは、熱意のある人が集まるか次第だと思います。</p>	
26	<p>計画の方向性は、安心できそうであると思いましたが、細かいところについて意見をさせていただきます。○安心安全の農産物を生産するという事について。現在の日本の主流となる農法は、家畜糞の堆肥や、化成肥料に頼った農法かと思いますが、これらの肥料だと、生産過程でのCO2排出が多い事。適量でない施肥による地下水汚染が心配されます。また、家畜たちが食している餌は、外国で採れたものが主流だと思いますが、遺伝子組み換え作物が多く含まれているのではないかと懸念しています。遺伝子組み換えをしているという事は、農薬や、除草剤が多く含まれているという事です。家畜糞に頼るという事は、外国の化学物質を私たちの土地に運び入れてしまう危険もあるという事を、農家は学んでほしいと思います。現在は、今までの慣行農法とは別に、自然栽培も確立されています。昔から農業をやっている人と、新しく農業を始めた人たちが互いに学び合い、認め合い、地域に愛される農をして欲しいと願っています。また、農薬についても町田基準を作りたいです。現在日本の農薬についての基準があると思いますが、それが適当であるとは思えません。以前、町田の農家さんの畑で、農家は、</p>	<p>いただいたご意見の主旨は、今後の事業検討の参考にさせていただきます。</p>

<p>消費者に向けて野菜を作る一方、自分の満足のためにきれいな野菜を作る面があるということを感じました。実際に農家がどれくらいの農薬を使っているのか、それを誰が監視しているのかを消費者は知りません。農薬の人体への害は、農薬が使われて、人や環境に害が出てから見直されるのが常ですが、そうなる前に、最初から使わなくても野菜が育つ方法があるのだから、無農薬のまち☆ベジを推進して欲しいです。そして、町田市のすべての給食を無農薬に近づけて欲しいと思います。</p>	
--	--